

第一一〇回  
川崎市定期能

# 能と狂言



能「西行桜」観世恭秀  
撮影 前島吉裕



能「忠度」山階彌右衛門  
撮影 前島吉裕

第一部

13時30分開場  
14時00分開演

狂言  
痿痺【しびり】

山本泰太郎(大蔵流)

能  
忠度【ただのり】

山階彌右衛門(観世流)

◆平成29年3月11日(土)

◆会場：川崎能楽堂

◆入場料：各部 4,000円  
(全席指定) U25 3,000円

※脇正面・中正面エリアのみ選択可。25歳以下の方  
購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ち  
ください。

第二部

15時30分開場  
16時00分開演

狂言  
舟ふな【ふねふな】

山本凜太郎(大蔵流)

能  
西行桜【せいぎょうざくら】

観世恭秀(観世流)

◆チケット発売日／平成29年1月25日(水) 午前9時より川崎能楽堂窓口にて発売(先着順) \*残券があれば、同日正午より電話でも販売いたします。

◆チケット取扱・お問合わせ／川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37

◆受付時間／窓口・電話 9:00～17:00 \*但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。

主催：(公財)川崎市文化財団 川崎市川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.044-222-8821/FAX.044-222-8817

\*開演後にはご入場いただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

狂言 瘰 痺 シテ太郎冠者 山本泰太郎 アド主人 山本凜太郎

能 忠 度 前シテ老翁 山階彌右衛門 大鼓 柿原 弘和 小鼓 幸 信吾 笛 一噌 幸弘

ワキ 旅僧 殿田 謙吉 高梨 万里 大松 洋一  
ワキツレ 從僧 御厨 誠吾 須磨の浦の男 若松 隆 清水 義也 浅見 重好  
後見 上田 公威 地謡 金子 聡哉 岡 久廣  
寺井 栄 新江 和人 藤波 重彦

狂言 瘰 痺 【しびり】

急にお客様が来ることになったので、主人は着を買いに行かせようと、太郎冠者を呼びます。けれども使いに行きたくない太郎冠者は、足がしびれて一歩も歩けなくなつてしまいました。これは親ゆずりのたちの悪いしびれで、なかなか治らないと言います。きつと仮病に違いないと思つた主人は、太郎冠者の嘘を見破るために良い考えを思いつきますが……。

能 忠 度 【ただのり】

藤原俊成の家臣の者(ワキ・旅僧)が、俊成の没後に出家し、旅僧の姿で都を発ち、須磨の浦へ来ています。そこで咲き始めた桜の花を眺めていると、老翁(前シテ)があらわれてその桜の木の下に礼拝します。僧が老翁に一夜の宿を乞うと、「この桜の木の下ほどよい宿はない」とい、平忠度の歌「行き暮れて木の下陰を宿とせば花や今宵の主ならまし」をあげ、この桜の木がその歌をつくつた平忠度にゆかりのあるものだとして説明して、僧が念仏を手向けると老翁は自ら忠度の霊であることとをほめかして消えます。(中人)

その夜、僧が花の木陰で仮寝をしていると、武将姿の忠度の霊(後シテ)が現れ、俊成の撰した「千載集」に入れられた自分の歌が(説人知らず)とされたことを嘆き、作者名をつけてくれるようにと俊成の子定家への伝言を頼み、一ノ谷での討ち死にのさまを見せ、重ねて回向を頼んで消えてゆきます。

狂言 舟 ふな シテ太郎冠者 山本凜太郎 アド主人 若松 隆

能 西 行 桜 シテ老桜の精 観世 恭秀 大鼓 柿原 弘和 太鼓 桜井 均 小鼓 幸 信吾 笛 一噌 幸弘

ワキ 西行上人 殿田 謙吉 高梨 万里 藤波 重彦  
ワキツレ 花見入 大日方 寛 清水 義也 新江 和人 浅見 重好  
ワキツレ 花見入 御厨 誠吾 寺井 栄 金子 聡哉 岡本 房雄 武田 尚浩  
アイ能方 山本泰太郎

狂言 舟 ふな 【ふねふな】

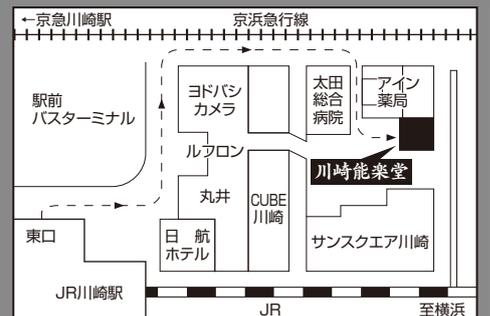
主人と太郎冠者が西宮見物に行く途中、神崎の渡しにさしかかり、舟を呼ぶ太郎冠者が「ふなやい」というと、主人は「ふね」と呼ぶようにたしなめます。

すると太郎冠者は、古歌を引いて「ふな」だと反論します。対して主人も「ふね」といつている古歌をひきますが、次々と古歌を引く太郎冠者に対して形勢が不利になった主人は……。

能 西 行 桜 【さいぎょうざくら】

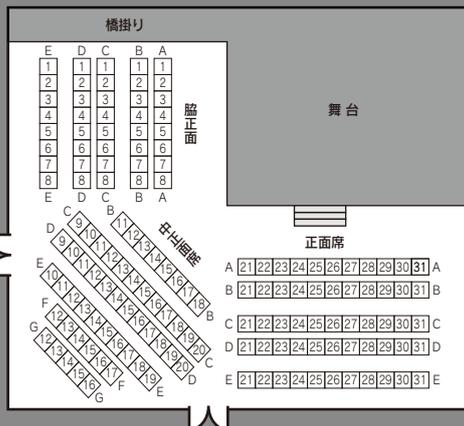
都の男たちが、京都西山の西行(ワキ)の庵の桜が盛りと聞いて花見へやって来ます。西行は花見の客を禁じていたのに、多くの人を迎えることになったので煩わしく思いますが、仕方なく一行を中にいれ、桜のために静かな暮らしを乱されたことを詠み、ともに夜桜を見物します。

その夜、西行の夢の中で朽ちた桜の木から白髪の老人(シテ)が現われて、西行の詠んだ歌の心を問いただし、桜に咎はないのだと言います。そして自分は老桜の精だと名のり西行に逢えたことを喜び、都の桜の名所を讀んで静かに舞を舞い、春の夜を楽しみますが、やがて夜明けと共に姿を消してゆきます。



JR川崎駅東口より徒歩5分  
■アクセス(JR川崎駅まで)品川駅より約9分 横浜駅より約8分  
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。  
川崎能楽堂  
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37  
TEL.044-222-7995 FAX.044-222-1995

川崎能楽堂座席表(148席)



※U25券は臨時正面席・中正面席のみ選択可。

次回公演のお知らせ

平成29年5月3日(水・祝) 14時開演

人間国宝の競演 友枝昭世と山本東次郎の至芸

会場：川崎市麻生市民館ホール (小田急線新百合ヶ丘駅北口徒歩3分)

狂言 昆布 売 シテ 山本東次郎  
能 「自然居士」 シテ 友枝 昭世  
解説 馬場あき子

\*チケット、川崎しんじゆの芸術祭、アルティマのゆめ2017  
チケットセンター(品川駅)・品川(アルティマ)・品川(ゆめ2017)  
3月30日・1月31日(品川)・品川(ゆめ2017) 1日  
TEL.044-295-9310  
詳細は川崎しんじゆの芸術祭ホームページ(www.artfestival.com)を確認ください  
http://www.artfestival.com/ticket/